

第1回九十九里浜侵食対策検討会議 開催結果概要

1 概要

日 時：平成29年1月23日（月）午後1時～午後3時

場 所：Qiball（きぼーる）13階千葉市ビジネス支援センター会議室

出席委員：17名

内 容：報告事項

（1）検討会議の設立趣旨及び要綱について

議 事

（1）九十九里浜の海岸侵食の現状について

（2）今後に予想される九十九里浜の状況について

（3）海岸利用者との意見交換会について

（4）今後の侵食対策の進め方について

2 主な意見等

（1）侵食のメカニズムについて

- ・侵食の要因には、漁港浚渫土砂の沖捨てや津波堤防の材料としての利用など、海岸域からの砂の持ち出しもある。
- ・九十九里浜の弓なりの海岸地形は、南北から豊富に供給されていた土砂によって形成されたものであるため、土砂の供給が減少するとその地形は維持できない。
- ・千葉県東方沖地震の後に、侵食が進んだ印象がある。

（2）養浜について

- ・漁業資源に影響を与えない形で養浜を行って欲しい。
- ・片貝漁港周辺の堆積土砂を養浜に活用して欲しい。
- ・他の区域から砂を持ってきて、広い砂浜を作る方法も有効である。
- ・横根には多くの砂が付いているが、こういった砂を養浜に使うのか。
- ・九十九里全体での必要な養浜量、養浜方法、漁港の浚渫量が知りたい。

（3）施設について

- ・ヘッドランドの近傍では離岸流が発生し危険であるため、海水浴場の入口や海岸への抜け道などの人が集まる場所は避ける必要がある。
- ・離岸堤は効果的だと思うが、地引き網やサーフィンなどの利用には不適切な施設である。
- ・侵食対策の大型ふとんかごは、繰り返し壊れており、よい工法では無い。

(4) 対策について

- ・ ヘッドランドと養浜をセットで考えることが重要であり、この考え方を皆が合意することが大事である。
- ・ 目標は40mの砂浜幅を維持していくことであり、これを維持しないと九十九里ではなくなってしまう。
- ・ 侵食対策としては、ヘッドランドと養浜しかないのか。
- ・ 縦堤まで整備しているヘッドランドの今後については、養浜実施状況を踏まえて検討する。
- ・ ヘッドランドは基部に砂が多く付くが、目標の砂浜幅40mは、直線で40mということに理解した。
- ・ 今後の進め方の前に、これまでの侵食対策の総括を行う必要がある。

(5) 地盤沈下について

- ・ 南九十九里の地盤沈下は大きな問題であり、地盤沈下の観測をすることは重要である。
- ・ 侵食対策の進め方の1つが地盤沈下を監視するというのは不満であり、もう少し強い言い方で合意が図れるとよい。
- ・ 天然ガス採取との兼ね合いもあるが、今後、地盤沈下はどのようになるのか。
- ・ 天然ガスは基幹産業であるため、地盤沈下しない採取方法なども考え、地盤沈下の抑制が天然ガス採取の禁止に結びつけることは避けて欲しい。

(6) 自然環境について

- ・ 木戸浜海岸は、最近侵食が激しく、ここ2年間はウミガメの産卵が無い。
- ・ チョウセンハマグリは、泥分に弱いため、養浜に使う砂の質が重要である。
- ・ チョウセンハマグリは、波や流れに強く、潜砂能力も高いため、資源としての復元能力は高い可能性があり、ヘッドランド等で動きを止める方が養浜よりも悪い影響があるかもしれない。

(7) 合意形成について

- ・ 侵食対策を進めると砂浜幅が狭くなる箇所もあり、後退が進む地元が認められる対策として欲しい。
- ・ 砂浜の回復が大前提の目標ではあるが、海岸の利用や自然環境の保護など、すべての要因を見据えて合意を図る必要がある。
- ・ ヘッドランドと養浜を進めると同時に、背後の駐車場や保安林の使い方などを見直し、砂浜を維持する箇所や防護を優先する箇所など、選択と集中が必要である。
- ・ 九十九里沿岸以外の県民にも侵食の状況を周知し、県民全体で砂浜を守っていく状況を作ることが望ましい。
- ・ 林野、環境、道路など他部局も含めた九十九里浜全体の総合的な計画も必要である。